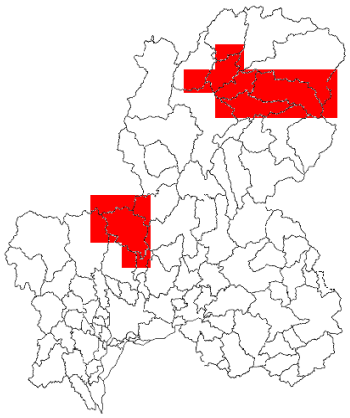
サクラソウ	*Primula Sieboldii* E.Morren	絶滅危惧Ⅰ類
（環境省：準絶滅危惧）	サクラソウ科	

選定理由	自生地が1ヶ所のみで個体数が少ないうえに、花が二型花であるために種子による繁殖も難しい。
形態の特徴	太く短い根茎をもつ多年草。葉は柄のある根生葉で皺が多い。花茎は20～40cm。先に5～20個の花を散形状につける。花冠は紅紫色。花には長花柱花と短花柱花の二型があって、別々の株をもち、同株間では結実しない。花期は4～5月。
生態的特徴	日当たりのよい湿った草地を好み、人里に近い山裾や河川敷、野原に自生する。
分布状況	北海道の西部、本州、九州に分布する。岐阜県では県北にみられる。
減少要因	埋め立てや開発工事による生育地の消滅、山野草の愛好家や園芸業者の採集が減少の主な要因である。サクラソウは長花柱花と短花柱花の二型の株が揃うことによって送受粉、結実という特殊な交配のしくみをもつ。開発によって昆虫が少なくなれば、受粉がならず結実率の低下を招く。生育地が小群落となり近交配が続けば将来的には種の絶滅になりかねないという危惧がある。
保全対策	種のみの保護では保全につながらない。生態系が保たれる環境そのものを、自治体や住民が一体となって里山的に保全する必要がある。
特記事項	採集を防止するために、情報の公表には慎重な配慮を要する。
参考文献	平凡社：野生植物Ⅲ、保育社：野草図鑑（7） 築地書館：滅びゆく日本の植物50種

写真（高橋弘）



文責：大沢律子